

令和3年度学校評価表

島根県立出雲高等学校

【学園の指標】	
(1) 自主自立の精神に富み、気品高き自治の学園	
(2) 誠実、勤勉にして、社会的秩序を重んずる学園	
(3) 職員、師弟、校友相睦み合う、友愛協和の学園	

(1)自主的な高校生活【自主自立】	①将来の目標を明確にし、その実現に向けて努力する。 ②出雲高校生としての誇りを持ち、品位ある言動を心がける。 ③心身の健康の保持・増進に努める。
(2)活力に満ちた高校生活【文武両道】	①日々の授業や探究学習に積極的に取り組むとともに、主体的・計画的な学習を行う。 ②部活動・生徒会活動・学校行事等に積極的に参加し、心身の成長を図る。 ③社会課題や科学技術に触れる機会を生かし、将来に向かって行動を起こす。
(3)心のふれあう高校生活【友愛協和】	①気持ちの良い挨拶を心がけ、豊かな人間関係を築く。 ②友人や周囲の人を思いやる心を培うとともに、互いの存在を認め合う。 ③さまざまな機会をとらえ、教職員、地域や国内外の人々と触れ合う機会を持つ。

出雲高校 キーワード&スローガン
「自立」「協働」「挑戦」

評価の指標(肯定的評価値の割合) A:80%以上(満足できる) B:60~79%(もう少し) C:50~59%(改善が望ましい) D:49%以下(改善が必要)

ミッション	領域	目標 (評価項目)	目標達成のための施策	主たる担当分掌	評価指標	自己評価					取組状況と課題	改善策	学校関係者評価	
						目標値 [a] %	評価値 [b] %	達成指数 [b/a]	平均評点 [総和/4]	評価			総合評価	コメント
一隅を照らす国の宝を育成する	環境整備	○学びやすい環境の構築 ○働きやすい環境の構築	(1)教育目標及び重点目標の達成に向けた教育活動が行われている。	管理職	評価指標	80	94.7	118%	3.3	A	「出雲高等学校グランドデザイン」を作成し、育てたい資質・能力と育成のための教育課程を明確化した。また、コンソーシアムなどの外部機関との連携も組み入れて、出雲の教育資源の取り込みを試みた。	来年度は、「学校運営協議会」という新しい組織のもとに学校運営が進められる。コンソーシアムを含め外部の意見も取り入れながら社会に開かれた教育課程の編成を目指す。	A	○ コロナ禍で学校運営上の制限やコミュニケーションの不足など様々な厳しい状態の中でも、生徒・保護者・教職員のアンケートでは全体として高い評価を得られていることはすばらしく、次年度も継続して取り組んでみたい。
			(2)PTA活動やPTAの広報等を通して保護者との連携を図る。	総務		80	100	125%	3.5	A	役員や評議員の選出時期や方法を、昨年度の反省を踏まえて適切に変更することができた。	来年度も状況に応じて適切に対処していく。	A	
			(3)様々な奨学金制度を紹介し、生徒・保護者にその活用を勧める。	図書文化情報		80	100	125%	3.5	A	奨学金関連業務を適切に行った。	引き続き、生徒・保護者の認知度を上げるよう努める。	A	
			(4)ホームページにより保護者・地域への広報活動を行う。			80	96.4	121%	3.3	A	HPは適宜更新しているが、休校時には貴重な連絡手段の一つとしての役割を果たすこととなっている。	個人情報(写真、動画を含む)の管理に留意しつつ、新たな役割を果たす方法を研究したい。	A	
			(5)生徒の健全な教養を育成するために適切な資料を整え、利用しやすい図書館運営を行う。			80	100	125%	3.5	A	積極的に活用していただき、感謝している。	情報の提供ではタイミングも大切である。質を担保しつつスピード感も大切にしたい。	A	
			(6)学習活動に即応できるICT機器利用の環境を整える。			80	96.4	121%	3.4	A	過渡期であり、取り組むべき課題が残った。	現段階で今後どのような環境になるのかははっきりしない。他所と協力しつつ順次進めていきたい。	A	
			(7)清潔で整った校内美化を保つよう、積極的に清掃活動を行う。			80	93.0	116%	3.2	A	清掃活動については消毒作業も含めて校内美化を概ね保つことができた。しかし、廊下の隅にほこりが残っていたり、時間いっぱい取り組むことなどに課題が見られた。	掃除の取りかき方を早くすると共に、自分の仕事が終わった後にも、周囲の状況に目を向けることができるよう、美化委員会などを活用して、指導していく。	A	
			(8)費用対効果考えた効率的な予算執行を行う。			事務	80	98.2	123%	3.6	A	コロナ対策や災害復旧への対応も含め、年間を通じて各分掌、教科との連携を図り、より高い効果が得られるよう、計画的、効果的な予算執行に努めた。	限られた予算なので、安全な教育環境の整備に特に配慮するなど今後も費用対効果や優先順位に留意し、適正な予算執行に努めていく。	
	人権尊重の精神の育成	○自他を尊重する精神の育成 ○豊かな人間性の育成	(9)生徒が主体的に取り組めるような生徒会運営を行う。	生徒	80	100	125%	3.5	A	生徒が主体的に動き多くの生徒会行事を良い形で行うことができた。	生徒の考えをうまく吸い上げながら、時には考えさせながら生徒主体の活動となるように運営していきたい。	A	○ いじめの問題については関心を持っている。未然防止・現状把握・適切な対応をお願いしたい。 ○ 生徒の心身の状況を教職員間で共有し、一人一人の生徒が生き生きと活動できるよう、支援をして欲しい。	
			(10)人権教育に係るホームルーム活動や講演会等の学習をとおして、人権感覚を育成し、自他の人権を尊重しあう意識の醸成を図る。	生徒	80	94.6	118%	3.3	A	4月、翌年2月に人権教育、道徳教育審議委員会を開催(目標設定、年間指導計画作成、反省)している。しかしながら委員会の内容が、教職員全員に周知されていない状況がある。	会議に参加している分掌長、教科主任、学年主任の先生に周知を図っていただく。会議資料を配布し全員周知出来るよう努める。HR活動の内容(生徒の感想)のHP掲載を速やかに行う。	A		
			(11)いじめに関するアンケートを活用し、いじめを許さない意識を醸成する。	生徒・保護者アンケートの結果を参考にした	80	93.0	116%	3.3	A	いじめアンケートを行い、挙がってきたものについて組織対応していくことは一定程度できた。しかし全体での共通理解といった部分についてはまだ課題がある。また未然防止という観点ではいじめアンケートだけでは不十分である。	年度初めの早い段階で校内研修を行い全体への対応の仕方等の周知徹底をはかる。未然防止の観点での新たな取り組みを検討していく。	A		
			(12)服装検査や街頭指導、集会指導等のあらゆる機会をとらえて、基本的な生活習慣の確立にむけた指導を行う。	生徒	80	89.5	112%	3.0	A	挨拶については呼びかけにより少しずつではあるが良い方向に向かっている。服装については多くの生徒がしっかりとルールを守れているが一部乱れている生徒がみられた。遅刻が多いが、その対策が不十分であった。	服装遅刻ともに生徒部だけではなく全教職員で取り組んでいかないといけない課題なので、どのように指導していくべきか担任の先生とも連携しながら検討していきたい。	A		
	規範意識の定着 ○基本的な生活習慣の確立	○規範意識の定着 ○基本的な生活習慣の確立	(13)部顧問や大会・遠征等の支援を行い部活動の活性化を図るとともに、規律ある活動に向けた指導を徹底する。	生徒	80	85.7	107%	3.0	A	コロナ禍の様々な制限がある中で多くの部活動で工夫しながら指導していただいている。19時半以降残っている生徒がまだまだ見られる。	完全下校については部活動の先生にご指導をお願いするしかない部分なので生徒への周知徹底とともに継続的なご指導をお願いしたい。また部活動指導については様々な事故等も想定されるので極力活動の場においていただくようお願いしたい。	○ 交通安全指導を引き続き行い、被害者も加害者も生まないよう取り組んで欲しい。		
			(14)街頭指導や自転車点検等の施策を行うことで、生徒の交通安全指導を徹底する。	生徒	80	96.5	121%	3.2	A	街頭指導や自転車点検は随時行っているが、多くの接触事故が起きた。	交通安全について適切な対応を指導していくとともに「自分の身は自分で守る」ということを継続的に指導していきたい。	A		
			(15)各教科と連携して指導方法の研究を行い、教員の指導力向上と教科指導の充実を図る。	教務	80	78.9	99%	3.0	B	新しい評価方法に合わせたシラバスの案を提示し、それに沿ったシラバスを作成するよう、各教科に依頼中である。	新しいシラバスを作成するために試行錯誤することで授業が改善され、そしてそれを適切に評価することが学力の向上に繋がると考えている。	A		
			(16)GRITizmノートや休日の自習開放を活用し、自ら学びに向かう意識を高める。	キャリア教育部	80	98.2	123%	3.4	A	GRITizmノートの活用や自習開放については、概ね高い評価を得ている。	昨年度の反省を受け、学年集会等でGRITizmノートの活用方法を指導するなどした。さらに続けたい。	A		
	進路目標の育成 ○能力・適性の開発	○望ましい職業観の育成 ○能力・適性の開発	(17)3年生の土曜補講・放課後補講を適切に実施し、生徒個々の進路志望の達成に向けた学力向上に役立てる。	キャリア教育部	80	96.0	120%	3.3	A	3年生の土曜補講、放課後補講については、概ね高い評価を得ている。	要改善とする意見として出ているのは「教員の働き方」に関するもの。負担軽減に向けて改善策を探したい。	○ 他項目と比較すると、課題の質や量について否定的に捉えている生徒や保護者が多い。その内容・頻度・意義について検討する余地があるのではないかと。		
			(18)大学入学共通テストや各大学の個別試験に関する情報を研究・整理し、教職員・生徒・保護者に発信する。	キャリア教育部	80	94.6	118%	3.3	A	共通テストや大学入学試験に関する情報提供については、概ね高い評価を得ている。	より分かりやすい資料提供を目指したい。	A		
			(19)3年間を見通した進路指導計画のもと、適切な情報提供により、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。	キャリア教育部	80	96.4	121%	3.4	A	進路指導計画やPTA土曜講座等での情報提供については、概ね高い評価を得ている。	PTA土曜講座については、より効果的なオンライン配信の方法を研究するとともに、次年度に向けては対面とオンラインの両輪での実施を目指したい。	A		
			(20)進路希望調査、PDGセミナー、久徴ゼンディビティなどを行い、キャリア教育に対する意識の高揚に努める。	キャリア教育部	80	100	125%	3.4	A	キャリア教育に対する意識高揚については、高い評価を得ている。	久徴会青年部等とも協力しながら、より生徒の意識を高めた。	A		
	安全対応能力	○危機管理体制の確立 ○危機回避・対応能力の向上	(21)個別添削、小論文指導や面接指導を組織的にを行い、進路実現を支援する。	キャリア教育部	80	96.4	121%	3.3	A	面接指導等の組織化と進路実現のためのきめ細かい指導については、概ね高い評価を得ている。	より効果的な指導体制を構築したい。	A	○ 進路決定の際の保護者面談について、情報や互いの気持ちを共有するために、三者面談での実施を検討できないかと。	
			(22)各種研修や課題研究などを通して、SSH事業と科学系人材・グローバル人材育成のための取り組みの充実を図る。	教育開発	80	96.5	121%	3.4	A	Globalに関して、シンガポール、サンタクララの海外研修が中止となり、国際教育プログラムの柱を失った。	科学的人材の育成という原点に立ち返り、コロナ禍中に科学教育プログラムの見直しをはかる。オンライン等の交流手段を保ちながら、実交流の機会をうかがう。	A		
			(23)危機管理体制マニュアルにより事故発生時に迅速かつ適切に対応できる体制を整える。	管理職	80	92.9	116%	3.2	A	新型コロナウイルス感染症、風水害、登下校中の交通事故、いじめ、虐待、ハラスメントなど様々な事象に対応した一年だった。完璧とは言えないが各分掌の協力を得て乗り越えることができた。	新型コロナウイルス感染症対策については引き続き県や国の通知に従って行っていく。諸問題を担任が一人で抱えることなく、学年会や分掌との連携を強化し、チームとして対応していく体制をつくりたい。	A		
			(24)学校防災計画を作成し、計画的避難訓練を実施することで生徒・教職員への周知徹底を図る。	総務	80	94.7	118%	3.3	A	地震警報システムの構築、防災LHRとの連動、など新しい取り組みを行った。昨年縮小開催せざるをえなかった避難訓練も適切に行った。	防災HRの内容のさらなる検討を行う。	A		